

月曜日

21

きょうのみことば

使徒 3:1~10

すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と言って、 (6)

レムナントの目

マコトは、いろいろなことで悩んでいます。「勉強もしなかったから、今度のテストもだめだ。ヒュー！サトル、おまえは心配しないのか」ふたごの弟のサトルが答えました。「ぼくは、いつも勉強をしているから、心配しないよ。ぼくには、明日のテストは、お母さんにほめてもらう、絶好のチャンスに思えるよ」

1. 福音の目で問題を越えましょう

普段から、勉強をあらかじめしている人は、テストになっても心配がありません。だが準備をしていなかった人は、心配がいっぱいになります。世の中の人々は福音を持っていません。それで、問題がくれば傷の目で、恐れのもでながめます。知らないふりをしたり、おたがいにけなして、けんかもします。しかし、福音を持っているレムナントはちがいます。福音の目で問題を正確に診断して、私だけでなく、みんな同じように生かすようにします。

2. 信仰の目で霊的な奥義を見ましょう

世の中の人々は、自分の考えだけ正しいと意地をはって、名誉・お金・美しさにだけすべての関心を注ぎます。しかし、霊的な目を持った人はちがいます。ペテロとヨハネは、神殿の前に座っている足のなえた人を救済の対象には見ませんでした。神様を離れた苦しみの中にいる人だと見て、イエス様の御名で立て起こしました。レムナントも、ペテロとヨハネのように、霊的な目を持って世の中を生かさなければなりません。

愛の神様、ありがとうございます。私を神の子どもにしてくださって、福音の目、信仰の目、霊的な目を持たせてくださって感謝します。この世を生かし、答えを味わう力あるレムナントにならせてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTCのために祈りましょう



えにしだの木の下のエリヤ

エリヤがすずしい木陰で祈ることができるように葉をいっぱいください

火曜日

22

きょうのみことば

テモテ 2:1-2

そこで、わが子よ。
キリスト・イエスにある
恵みによって強くなり
なさい。(1)

習慣のいやし

天才バイオリニストのサラサーテの言葉です。人々は自分を天才だと言うが、37年間、14時間ずつ毎日バイオリンを練習しました。このように何でも身につけようとするなら、一貫した訓練と努力が必要です。良い習慣も同じです。

1. 自制の実

聖霊の九つの実^みは3つに分けることができます。愛・喜び・平安は神様に向かった実^みで、寛容・親切・善意は、他の人に向かった実^みで、誠実・柔和・自制は自分に向かった実^みです。ある神学者は、自制がもっとも重要な実^みだと言いました。ブレーキがない自動車は事故を起こすように、自制がない生き方は、人生を滅ぼすからです。

2. 私に勝つ力を養いましょう

私^{わたし}がいる家、学校、教会で私^{わたし}を見つけなければなりません。福音の中で、私^{わたし}を見つけなければなりません。神様と通じる祈りの奥義^{おくぎ}の中で私^{わたし}を見つけなければなりません。定刻^{ていこく}祈り^{いの}と常時^{じょうじ}祈り^{いの}の中で私^{わたし}を見つけなければなりません。礼拝^{らいはい}の中で私^{わたし}を見つけなければなりません。問題^{もんたい}とできごとの中で、神様の計画^{けいかく}を発見^{はっけん}する私^{わたし}を見つけなければなりません。

3. 新しく挑戦^{ちょうせん}しましょう

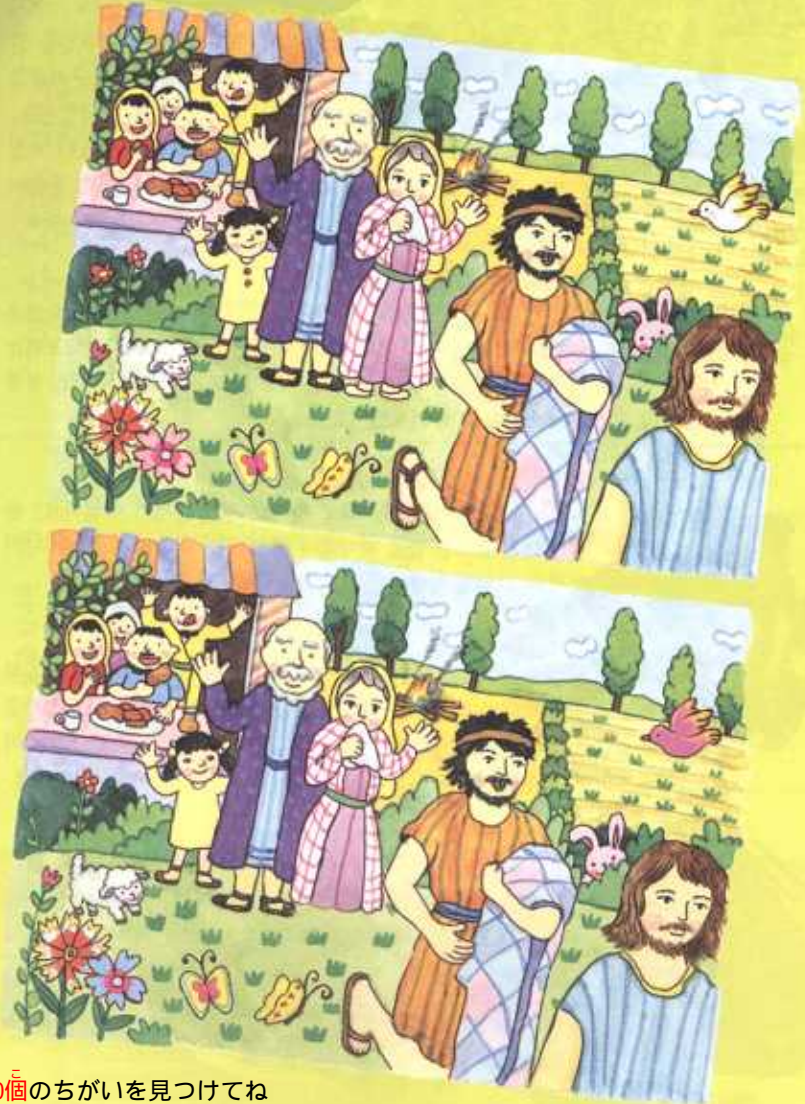
手のつけられない状態^{じょうたい}にせずに、先に良い習慣^{しゅうかん}と悪い習慣^{しゅうかん}を区分^{くぶん}して、真実^{しんじつ}の考え^{まこと}と真^{まこと}の勇気^{ゆうき}と心より悔い改めながら、一つずつ直^{ただ}していきましょう。挑戦^{ちょうせん}する人だけが良い習慣^{しゅうかん}を持てます。レムナントは、キリスト・イエスの中にある恵み^{めぐみ}の中で強い人々^{ひとびと}なのです。

父なる神様、良い習慣^{しゅうかん}を持ちたいです。私^{わたし}ができることから、ひとつずつ始めて、一つずつ少しずつ変えていくことができるように、力^{ちから}と勇気^{ゆうき}をください。イエス・キリストのお名前^{いのおなまえ}によってお祈り^{いの}します。アーメン

定刻^{ていこく}祈り^{いの}の点検^{てんけん}: 昼 12時 教会^{きょうかい}のために祈り^{いの}しましょう。夜 9時 RUTCのために祈り^{いの}しましょう

エリヤに出会ったエリシャ

エリシャが両親^{りやうしん}とおわかれのあいさつをしました。また、畑^{はたけ}をたがやしていた牛2頭^{ごうごう}を殺し、牛が引^ひいていた農具^{のうぐ}を火で燃^もやして料理^{りょうり}して、村^{むら}の人々^{ひとびと}に分けました。2つの絵にはちがいがあようです。見つけてください。



10個^{じゅうこ}のちがいを見つけてね

水曜日

23

きょうのみことば

使徒 2:14~21

これは、預言者ヨエルによって語られた事です。(16)

しょうにん 証人のはじまり

1880年代、イギリスには、中学と高校に特殊学級がありました。そのクラスは、勉強をあまりできなかつたり、知能がおくれた子どもたちが授業を受けるところです。その特殊学級で勉強をしていた子どもが、英国士官学校に入って、戦争で英雄になり、イギリスの首相になりました。人々は、その子を20世紀でいちばん偉大な政治家ウィンストン・チャーチルと呼びます。チャーチルは、困難な中で、あきらめないでそこから始めました。レムナントも、困難があっても、その中から始めなければなりません。

1. 困難は、伝道のはじまりです

大部分の人は、困難と問題をさけようとしています。ところが、ヨセフは、家庭の問題の中でキリストの奥義を見つけ出しました。初代教会は、迫害の中ですべてののろいに勝つキリスト、神の国、聖霊の働きを見て祈りました。

2. 聖霊の働きを体験しましょう

「私と関係ない問題なの!」と言えば、本当に問題ではないでしょうか。問題の中で重要な答えを見つけ出さなければなりません。神様の時刻表を待ってみましょう。そうすれば、聖霊がかならず働いてくださいます。

3. 証人になりましょう

レムナントは、一日、一週間、一ヶ月、一年のスケジュールを組んで、誠実に守って行かなければなりません。それとともに、みことばの証拠をにぎって、祈りの時間を持たなければなりません。とても大変なことに聞こえますか。それなら、毎日とても簡単で小さいことから一つずつ実践してみましょう。小さい実践が証人のはじまりなのです。

神様、困難を越える恵みをくださってありがとうございます。迫害と苦難の中で伝道のはじまりをすることができるレムナントにならせてください。神様の時刻表を待って、聖霊の働きを体験する証人となりますように。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

◆ 定刻祈りの点検：昼 12 時 教会のために祈りましょう。夜 9 時 RUTC のために祈りましょう

イエス様に出会った サマリヤの女



イエス様は

弟子たちといっしょにユダヤを出て、ガリラヤに行こうとされました。ガリラヤに行くには、サマリヤや地方を通らなければなりませんでしたが、ユダヤの人々はサマリヤの人々を、とてもきらわっていたのです。どれくらいきらわっていたかというところ、サマリヤや地方を通らないように遠回りして行っていたりしていました。しかし、イエス様はそのようにされませんでした。サマリヤや地方を通ってガリラヤに行くと言われました。長い旅につかされたイエス様は、井戸のそばに座っておられました。その井戸の名前は、ヤコブの井戸でした。

「私は、メシヤ、すなわち、キリストという人が来られることを知っています。来られれば、すべてのことを私たちに知らせられると言われました」

女が話しました。すると、イエス様はあたたかい目つきで女をご覧になりました。

「今、あなたと話しているわたしがまさにそれです」

女は、このうれしいうれしさを町の人々に伝えるために、水がめを置いたまま町に走っていきましました。町の人々を連れて、いつも暑い正午に水をくみに来ていた女がそのようにしたのでした。女からイエス様について話を聞いた人々はイエス様のところに行きました。イエス様は、ユダヤ人がとてもきらわっていたサマリヤの人々といっしょに二日間そこにいて、彼らにみことばを与えられました。その町の多くのサマリヤ人は、イエス様のみことばを聞いてイエス様を信じるようになりました。





正午であったためなのか、太陽の光がサンサンと輝いていました。それで、サマリヤの人々は、その時間には水をくみには出てきませんでした。しかし、遠くからひとりの女が水をくみにやってきました。イエス様は、その女におっしゃいました。

「わたしが飲む水をちよとくください」

ユダヤの人は、サマリヤの人々をきらっていることをよく知っている女はイエス様にお聞きをしました。

「あなたは、ユダヤの男の人ではないですか。ユダヤ人は、サマリヤの人々に話もしないと思うのですが」

また、わたしがたれなのか知るならわたしは求めるでしょう。そして、あなたに与えたいです。」

女は、目を丸くしました。すると、イエス様が、この水を飲む人は、もうのどがかわかないとおっしゃいました。



「私にその水をください」

私がおうかわくことがないだけではなく、もう水をくみにここまで来なくてもよいように、女が言うと、イエス様が答えられました。

「行って、あなたの水を飲んで、こちらに連れてきなさい」

女はとまどいながら「私には水がありません」と答えました。

「あなたには水がないといった話は、正しい言葉です。あなたには五人の水がありました。しかし、今、あなたと一緒に暮らしている男もあなたの水ではありません」

「あなたは預言者ですね！」

女は大声を張り上げました。

女は、イエス様に礼拝をどこでさげてください、真の礼拝なのかと尋ねました。イエス様は、礼拝の場所が重要なのではないと言われました。神様は霊ですから、礼拝する者は、霊とまことによって礼拝するとおっしゃいました。

永遠に信じるためである



きょうのみことば

出 19:7~15

すると、主はモーセに仰せられた。「見よ。わたしは濃い雲の中で、あなたに臨む。わたしがあなたと語るのを民が聞き、いつまでもあなたを信じるためである。」

それからモーセは民のことばを主に告げた。

(9)

.....

.....

.....

.....

.....

魚は、水の中で生きるとき、いちばん幸せです。木は、地に深く根をおろしてこそ幸せです。これを創造の原理と言います。同じように、人々は最初から神様とともにいてこそ、幸せになるように造られました。神様を離れたときから、人間にはすべての問題がやってきたのです。

1. 永遠に忘れてはならないことがあります

世の中には2つの事がずっとくりかえされています。神様を知らない友だちは、サタンの奴隷になって生きて、神様の子どもになった友だちは、聖霊の導きを受けながら生きます。しかし、福音をのがせば、ほえたける獅子のようにサタンが攻撃します。それで、レムナントは福音を絶対にのがしてはいけません。

2. 永遠にしなければなりません

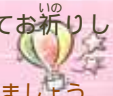
神様がモーセにおっしゃるのに、聞くことができなくて信じる事ができない民がないように、子孫に、長老に、すべての民に伝えなさいと言われました。聞かなければ信じられなくて、伝えなければ聞くことができません。親に従って先祖をおがんだり、異端に陥っている友だちに福音を伝えてみてください。伝道と宣教は、神様が与えられる力で永遠にしなければならぬことなのです。

3. 神様の力を体験しましょう

みことばが聞かえるように、みことばが信じられるように、みことばをにぎって答えを受けるように、いつも祈らなければなりません。みことばの中で神様の力を体験できます。礼拝とタラップンを通して神様が与えられる力を得る時、レムナントの未来を責任を持っておられる神様の力を体験することができます。

神様、みことばを聞いて、みことばを信じて、みことばをにぎって答えられるレムナントにならせてください。モーセのように、福音をすべての人が聞くことができるように叫ぶ証人の人生を生きることができるようになります。イエス・キリストのお名前によってお祈りします。アーメン

★定刻祈りの点検：昼 12時 教会のために祈りましょう。夜 9時 RUTCのために祈りましょう



心の中にある2つの**げんり**原理

金曜日

25

きょうのみことば

ローマ 7:19~25

そういうわけで、**わたし**は、**ぜん**をしないと願っているのですが、その**わたし**に悪が宿っているという**げんり**原理を見いだすのです。

(21)

アカリは、クラスの友だちのミユキの家に遊びに行きました。お父さんとお母さんが共稼ぎで出ているので、家にはだれもいませんでした。ミユキは、お酒を取り出して、アカリに言いました。「私はさびしいときには、これを飲むの。そうしたら、気持ちが悪くなるの。あなたも飲んでみて」アカリは、心の中で2つの原理があって戦いました。「神様の子どもは、こんな誘惑に乗ってはならない!」「いいじゃん。気持ちが良くなるなら」アカリは、決心して「私は飲まない。それから、なぜあなたがさびしいのか、理由を教えてあげる」と言って、福音を伝えました。

1. 聖霊の原理と肉の原理

神様の子どもの中には、**せいれい**の原理(欲)と、**にく**の原理(欲)がいつも戦っています。信仰の先祖アブラハムもそうでした。日照りという問題の前で、**にく**の原理に従ってエジプトに行ってしまう。しかし、**せいれい**の原理に従っておい口を送る信仰の選択をした時には、神様の働きを体験しました。神様は、今でもレムナントがこの信仰を選択して、神様の働きを体験するように願っておられます。

2. 伝道者パウロの祈り

「ああ、**わたし**は、ほんとうにみじめな人間です。だれがこの死の、からだから、**わたし**を救い出してくれるのでしょうか」伝道者パウロがした告白です。パウロは自分の姿を隠しませんでした。率直に、**しんじつ**に神様の前に立ちました。その時、神様はたがれました。レムナントも、パウロのように神様の前に正直になる時間を持ってみましょう。**わたし**の心をすべて知っておられる神様は、なぐさめて答えてくださいます。

神様、**わたし**の心の中に2つの**げんり**原理が出てきて戦っています。**わたし**に恵みをくださって、**しんこう**の選択をさせてください。神様の前に**しんじつ**に立って、神様があたえてくださる、なぐさめと答えを体験するレムナントにならせてください。イエス様のお名前によってお祈りします。アーメン

定刻祈りの点検：昼 12時 教会のために祈りましょう。夜 9時 RUTCのために祈りましょう

エレミヤ 23:1~6 その日、ユダは救われ、イスラエルは安らかに住む。その王の名は、『主は私たちの正義。』と呼ばれよう。(6)



イスラエルの民が、神様のみことばを聞かないで、その心をかたくなにして、うそをつく心で生きていきました。神様でない**ほか**の**かみ**の神につかえて、その前にお辞儀をすることさえしました。完全に変わってしまったイスラエルを神様はゆるされることができませんでした。結局、イスラエルの民は**ほりよ**捕虜として引きずられて行きました。そのうちに、また神様に悔い改めて、立ち返りました。しかし、また神様のみことばを聞かなくなりはじめました。これこそがイスラエルの歴史です。神様によくつかえて、墮落して、捕虜になって、**ぞっく**属国として引きずられて行って、悔い改めて、また戻ります。このようになり返すは、エレミヤ時代までずっと続いたということです。

ところで、預言者エレミヤの時代に、イスラエルは滅びて、民たちは、捕虜になって捕まえられて行くようになりました。し

アドナイ・ツィケヌ

かし、神様はこの暗い**しんぱん**の時期と失敗の時期に、新しい契約である恵みの約束をあたえられました。神様がイスラエルの民に新しい心をくださって、神様と正しい**かんけい**関係を結ぶようにされたのです。

神様は**ひと**の力では、**れいてき**霊的な問題を解決できないことをよく分かっておられます。それで、アドナイ・ツィケヌ(神様は私たちの義)という言葉のように、イエス・キリストを通して私たちが**ぎ**と認められるようにされました。それだけではなく、**ぎ**に認められて生きるように、**しんじつ**の心と力をあたえてくださると、主の霊である**せいれい**が内住して導いてくださいます。

もしかして、**わたし**の心が**わたし**の思い通りにならないのでしょうか。よくない習慣をくり返すのでしょうか。私**わたし**たちの力で行うことができないので、キリストを**おく**てくださったのではないですか。今日一日、ダドナイ・ツィケヌを黙想しながら、新しい心と力をあたえてくださいと祈ってみましょう。



26日(土)

大好きな サクラちゃんへ

サクラちゃん、元気？ セイコです。

少し前、私にあなたが、おさげにするよりショートカットのほうが、にあうと言ってくれたでしょう。ほかの友だちは、みんな男の子みたい

だってからかったから、私はそう言ってもらって、とてもうれしかったの。

だから、私がこんど、夏休みのときにインドネシアのバリに伝道キャンプに行った話をしてあげたいと思って、手紙を書くことにしたの。

今回のキャンプは、「主のみこころを抱くキャンプ」という主題で行われたの。

私は、海外キャンプは、今回がはじめてだったので、どれほど胸がどきどきしたか。それで飛行機の中で手を合わせて祈ったの。

「イエス様、イエス様の心を抱いて、福音をつたえるように、聖霊で満たして、導いてください」

インチョン飛行場を出発した飛行機は、7時間かかって、インドネシア、バリ島のテンバサール空港に到着したの。空港いっぱい、強い香りのにおいがしていて、あちこちに立っている偶像が見えて、私は、インドネシアが90%がヒンドゥー教の偶像に仕えているということを感じたの。

ところで、そこにいた現地の働き人が、がたっとびっくりする音を出したの。インドネシアでは、道で福音を伝えるとつかまって、刑務所に15年も

定刻祈りの点検：

昼 12時

教会のために祈りましょう。

夜 9時

RUTCのために祈りましょう

閉じ込められないといけないということだったの。だから、私は心の中で「神様、ここで霊的な目を開いてくださって、見るべきことを見させてくださって、出会いの祝福をください」と祈ったの。

私と私たちのキャンプチームは、ライフハウス孤児院に行って、福音を伝えようとしたの。そこには、私と同じ年くらいの子どもたちが25人いたの。それで、その中でキッタという子どもが私に向かってニコッと笑って、私のところに来て、私の手をつかんで、これは何なのとたずねたの。そのとき、私の手には伝道のトラクトがあったのよ。

私はキッタに、インドネシア語で準備した伝道トラクトを、たどたどしく読んであげたの。「イエス、アティラ、クリストス(イエス・キリスト) アナク、トゥハン(神様の子ども)」。伝道トラクトを読んだら、子どもたちが一人、二人と集まってきたの。

その日、25人の子どもたちが純粋にイエス様をキリストとして受け入れたの。

私は私を神様の子どもにしてくださいって、現場で伝道者として用いてくださる神様に感謝したの。そして、お父さん、お母さんの祈りと、物質的にバックアップしてもらって、伝道キャンプに行った私が、どれほど祝福された伝道者なのかわかったの。

それで、サクラちゃん。私はあなたにもキッタのようにイエス様をキリストとして受け入れて神様の子どもになったらいいなと思う。明日、私があなたに神様に会う道を教えてあげてもいいかな？

サクラちゃんが大好きな友だち、セイコ

